



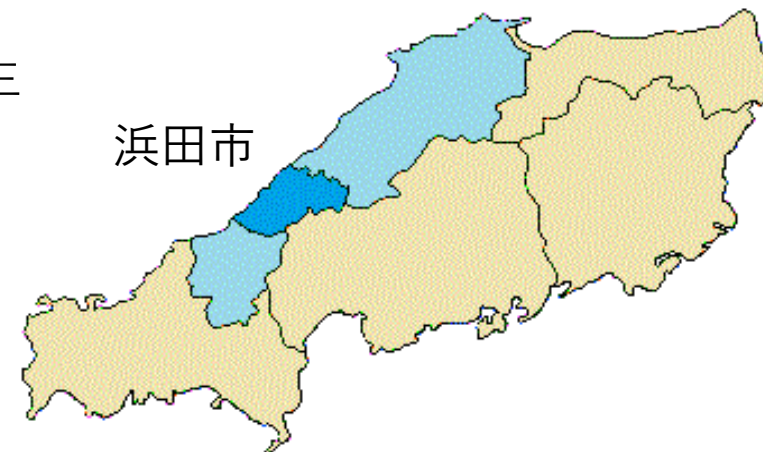
オーガニックビレッジはまだ

～持続可能なオーガニックビレッジを目指して～

浜田市農林業支援センター
センター長 岡田 浄

■島根県西部(石見地方)の中核都市

- ▶平成17年10月、1市3町1村が合併し新「浜田市」誕生
- ▶面積：約690km²（東京23区(約621km²)より広い）
- ▶人口：47,707人（令和7年9月末現在）
- ▶基幹産業は「水産業」と「農林業」
- ▶日本遺産「石見神楽」の本場



「浜田漁港」(特三漁港)



里山の田園風景



日本遺産『石見神楽』

いかしあうつながり（有機的な関係性）によって 浜田市の大地と海、風土をはぐくみ続けるまち



「農地」「人」「地域」を「持続可能」なものにし、次世代に受け継ぐ

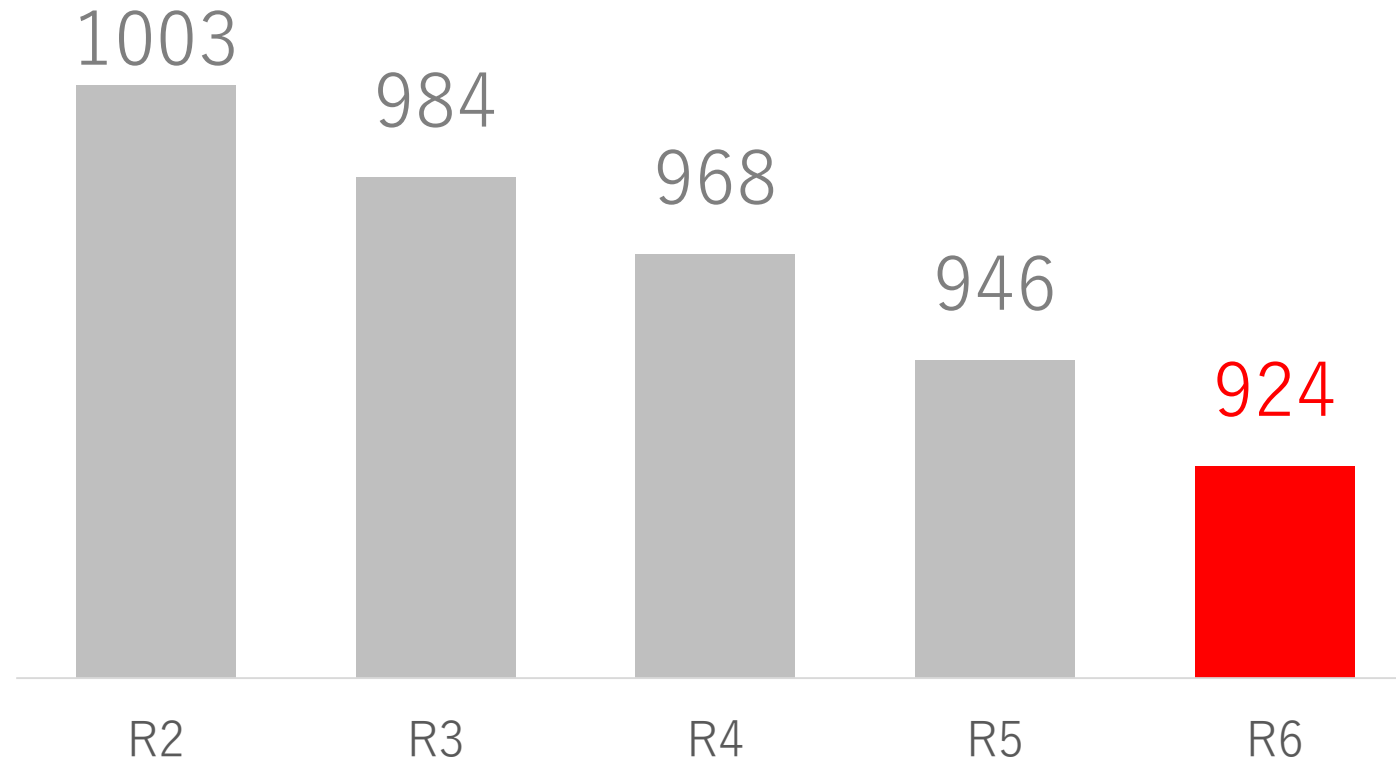
- 1 【農地】 有機米の生産拡大で農地維持
- 2 【人】 時代に合った農業経営の確立
- 3 【地域】 地域を巻き込んだ取り組み

1 【農地】

有機米の生産拡大で農地維持

水稻作付面積が急速に減少

水稻の作付状況 (ha)



水稻作付面積は
5年間で約**80ha**減少

高齢者が離農した後
農地の受け皿となる
経営体が必要

アイガモロボの普及拡大

令和4年度からアイガモロボによる雑草対策の省力化実証を実施。令和7年度は、農研機構が実施する「スマート農業開発・供給事業」に協力。



アイガモロボ
×
省力・低コスト
有機稲作

R7実績

10a当たり
7.7 俵
(462kg)

アイガモロボ
の導入実績

【R6】
0 経営体
▶
【R7】
7 経営体

有機米栽培研修会の実施

NPO法人民間稲作研究所を招聘し、省力・低コスト有機稲作の研修会を実施。有機米の面積拡大及び収益性向上に繋げる。



有機米栽培実績
(非JASを含む)

【R3】
6 ha
▶
【R7】
18 ha

生産者も5名から18名へ拡大

集落まるごと有機化プロジェクト

浜田市弥栄町の門田集落では、集落営農法人が管理していた農地を段階的に有機生産者が引き受け、令和10年に集落全ての農地20haを有機化するプロジェクトを進行中。



	【R6】	【R10】
有機米 栽培面積	約6 _{ha}	▶ 約20 _{ha}

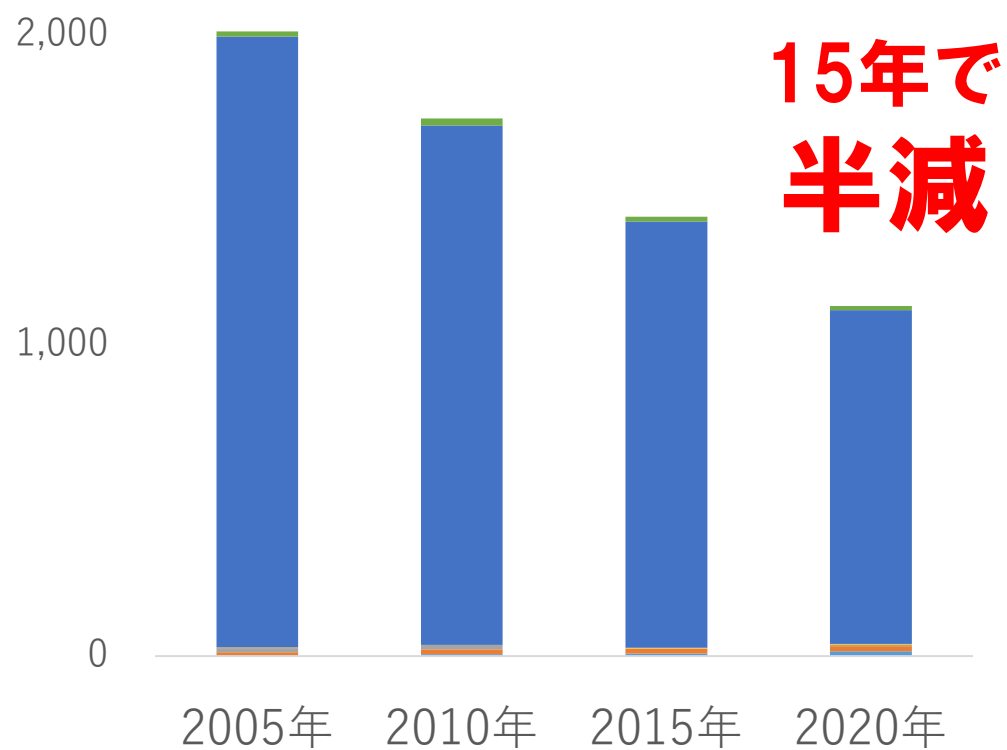
- ▶ 拡大計画に基づき、ベテランの有機米生産者のもとへ今年度地域おこし協力隊2名を受入れ
- ▶ 地域おこし協力隊の任期終了に合わせて法人を設立
- ▶ 地域おこし協力隊の持つ販路も活用して、全国へ販売展開する

2【人】

時代に合った農業経営の確立

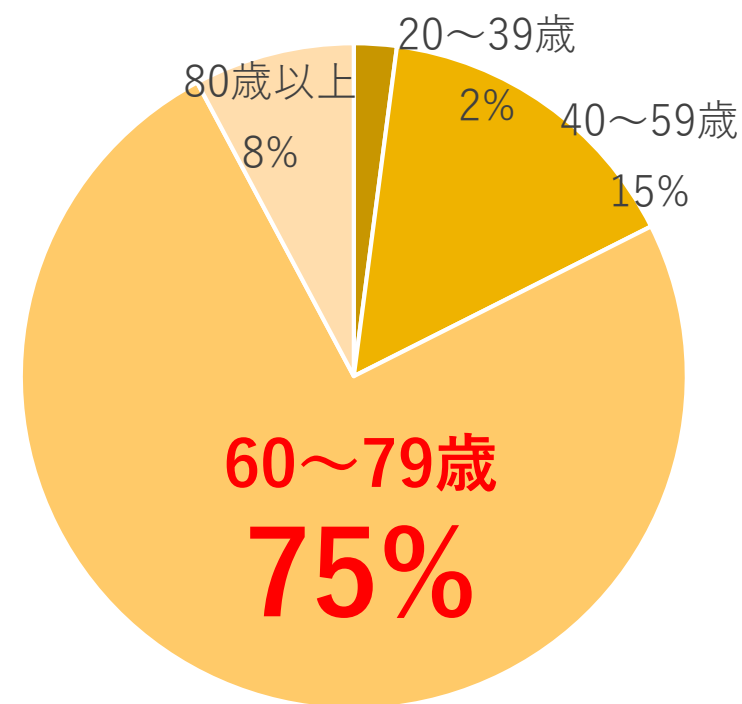
高齢化に伴う農家の著しい減少

農業経営体数



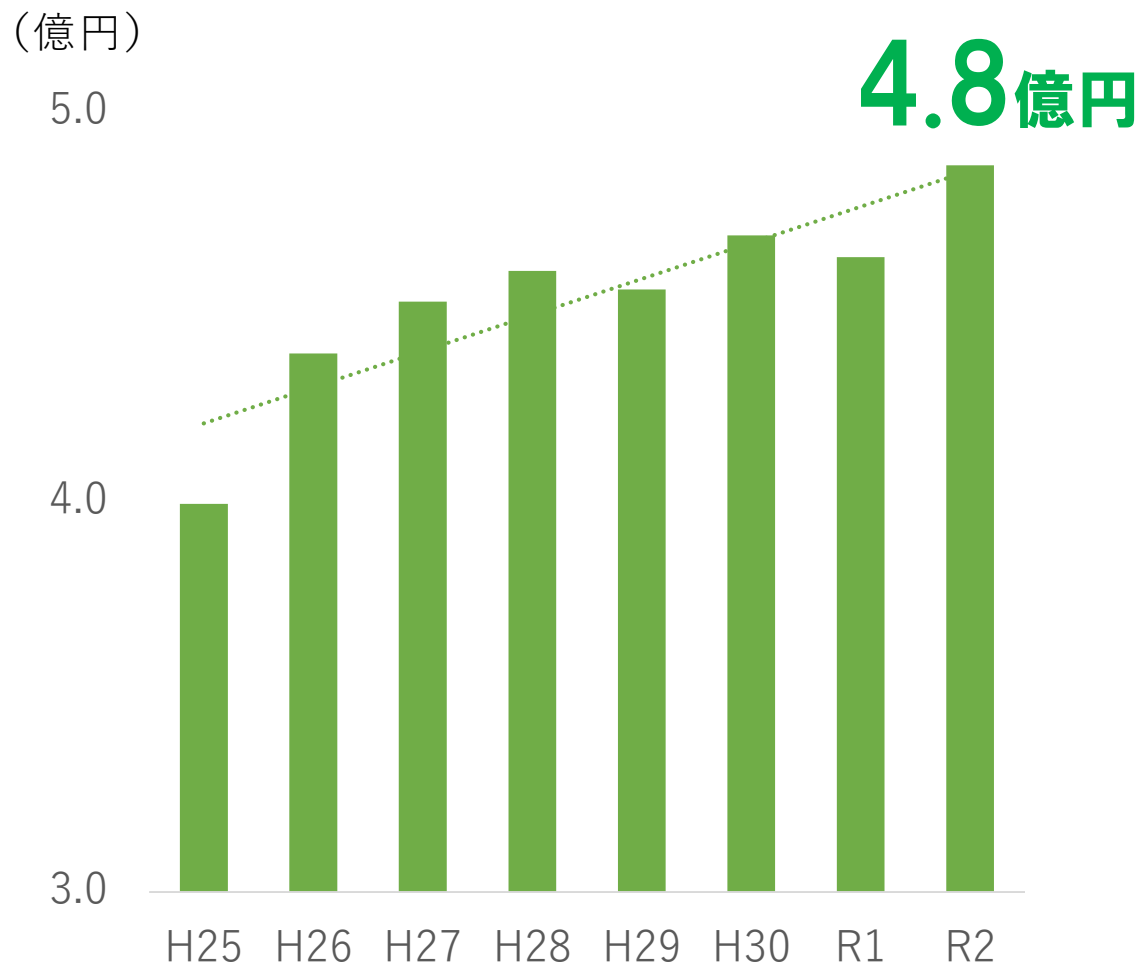
主に小規模零細農家が減少

農業経営体の年代層



今後、更に離農が進む見込み

有機野菜の年間産出額は上昇傾向



いわみ地方有機野菜の会 (株)ぐり～んは～と

- 施設面積 12.0ha (ハウス440棟)
- 主力品目 ほうれん草、小松菜、水菜、葉ねぎ、春菊、ミニチンゲンサイほか
- 販売量 約800t
(うち、約400tを(株)ぐり～んは～とが販売)
- 取引先 約130社 (2020年現在)

有限会社やさか共同農場

- 農産物生産・販売
 - ▶水稲、大豆、大麦 25ha
 - ▶施設野菜 (葉菜類) 1ha
 - ▶露地野菜 (加工トマト等) 5ha
- 加工品製造・販売
 - ▶加工品 (味噌、糀、トマトジュース等) 製造販売

生活に必要な所得が得られる就農モデルにブラッシュアップ



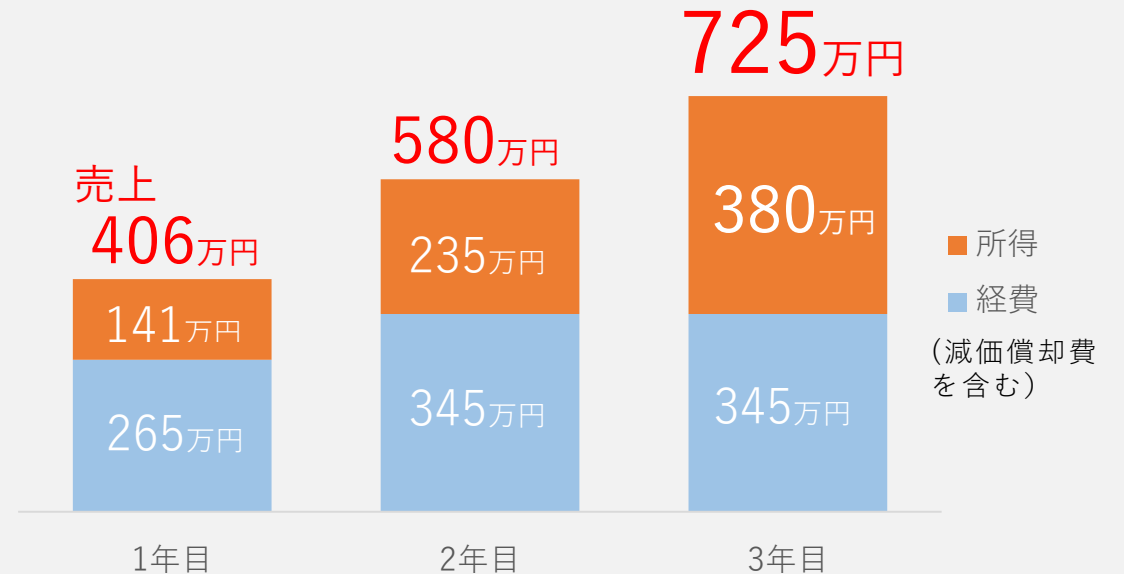
■営農規模： 14.4a（ビニールハウス8棟）

■作 目：有機軟弱野菜

（ほうれん草、小松菜、水菜等）



■収支計画（例）

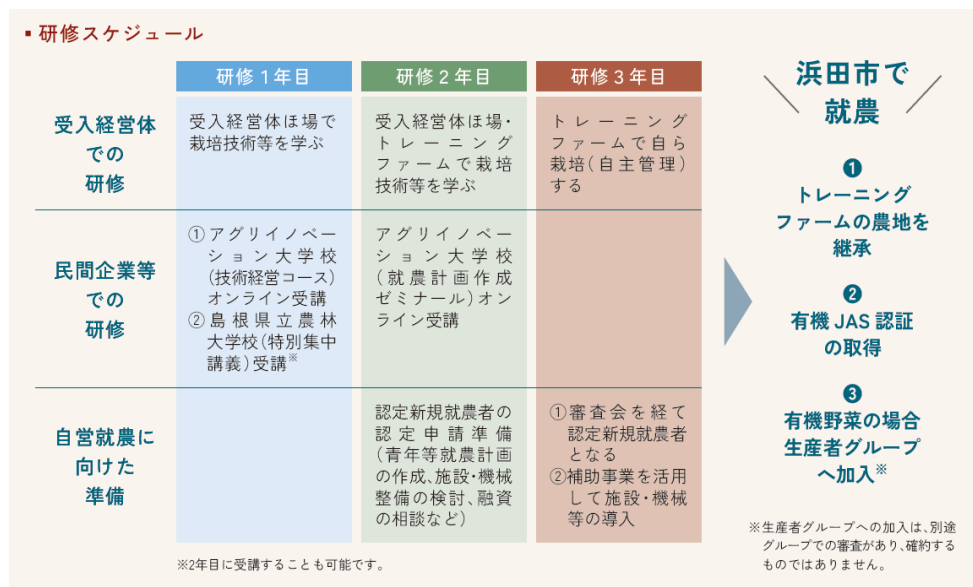


長年有機農業を営まれ、経営を確立している有機生産者のもとで
高度な栽培技術や経営を学ぶことができる



▶地域おこし協力隊（有機農業研修生）

3年の研修期間中に栽培技術や経営スキルを習得しながら、農地や機械の準備、認定新規就農者の認定取得などの自営就農に向けた準備が進められ、研修後にはすぐに農業が始められる。



令和7年度に2名が研修をスタート（有機米）

▶ふるさと農業研修生制度

有機米、有機野菜、大粒ぶどうなど多岐にわたる経営体での研修が可能。
（研修期間 最長1年、研修後は自営就農・雇用就農を目指す。）

延べ63名受入れ（H21～） 定着率 62%

【R7実績】

6名



【R11目標】

15名（延べ）

3 【地域】

持続可能なオーガニックビレッジ

中山間地域では、農地がなくなれば地域そのものがなくなる。
多様な担い手や次世代の確保・育成に向けてさまざまな取組を進めている。



生き物調査



有機給食



「みえるらべる」の取得



アイガモロボプログラミング



粃殻燻炭の活用

有機農業を核とした多様な担い手確保



■弥栄町複業協同組合

特定地域づくり事業協同組合を設立し、高齢化や人口減少により労働力が不足する生産者等へ人材を派遣。マルチワーカーとしてさまざまな職種を経験でき、有機農業を多角的に見れる人材を育成。

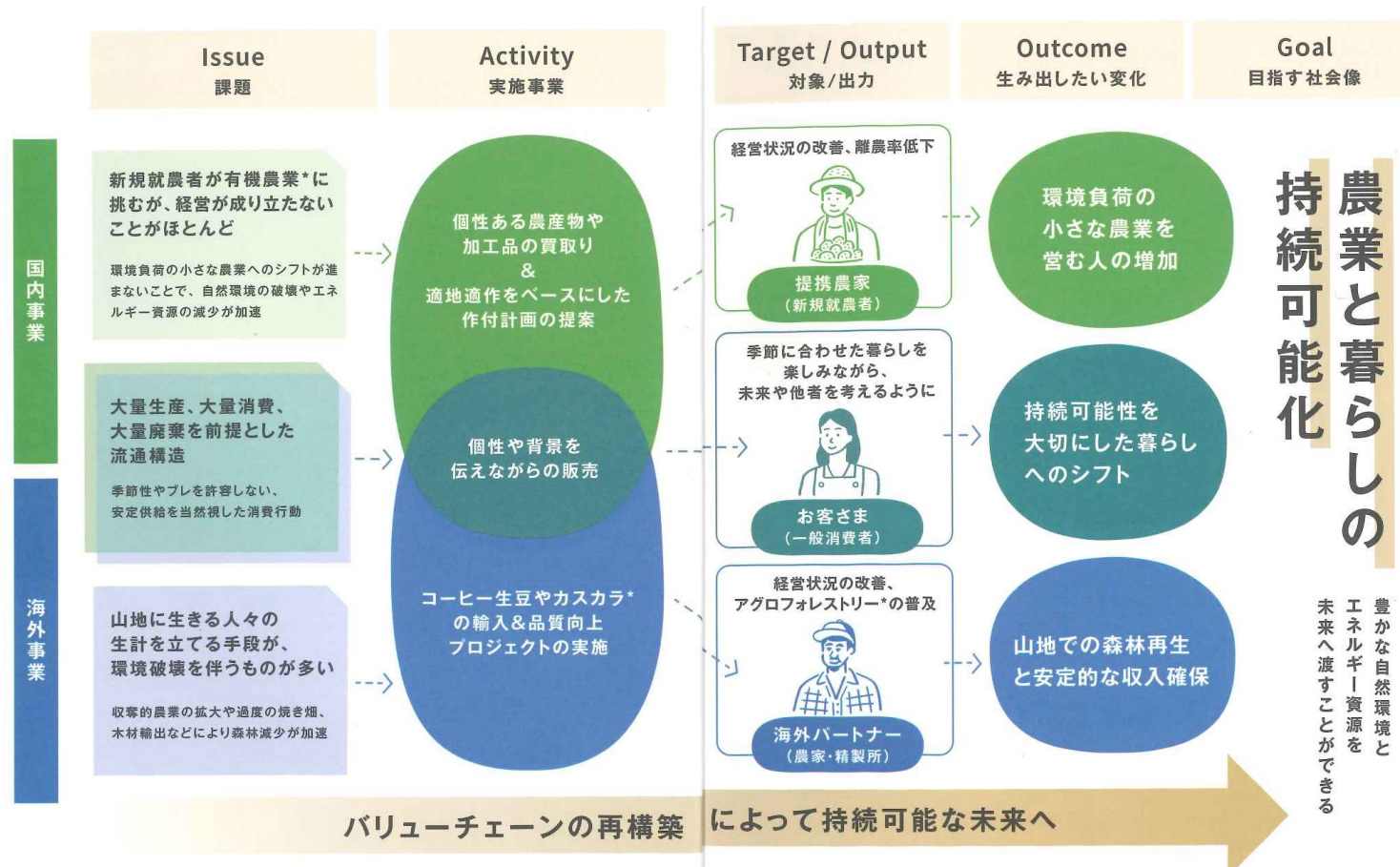


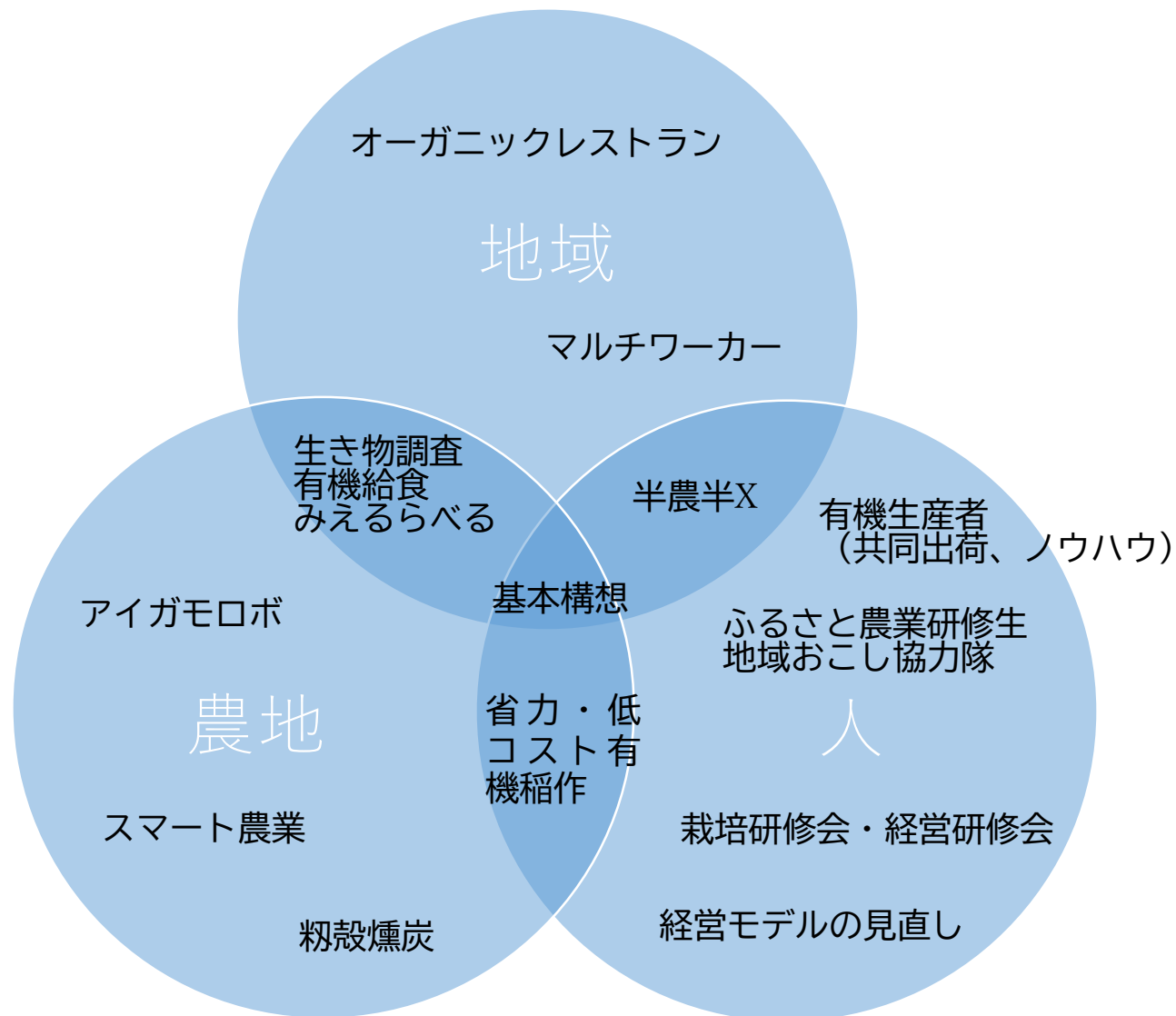
■いわみ留学

地域おこし協力隊制度を活用した中長期滞在プログラム。旅行でも移住でもない「留学生」として地域に関わりながら地域の暮らしを体感・体験でき、段階的に移住や就農を検討できる。

受入先では「オーガニックレストラン認証」取得を目指す

浜田市が目指すオーガニックビレッジの理念を、分野を横断した一貫性のある構想にまとめ、持続可能な農業をさらに推進する。





浜田市は地域や企業等と連携した取組により「農地」「人」「地域」を「持続可能」にし、「持続可能なオーガニックビレッジはまだ」を次世代につなげます。